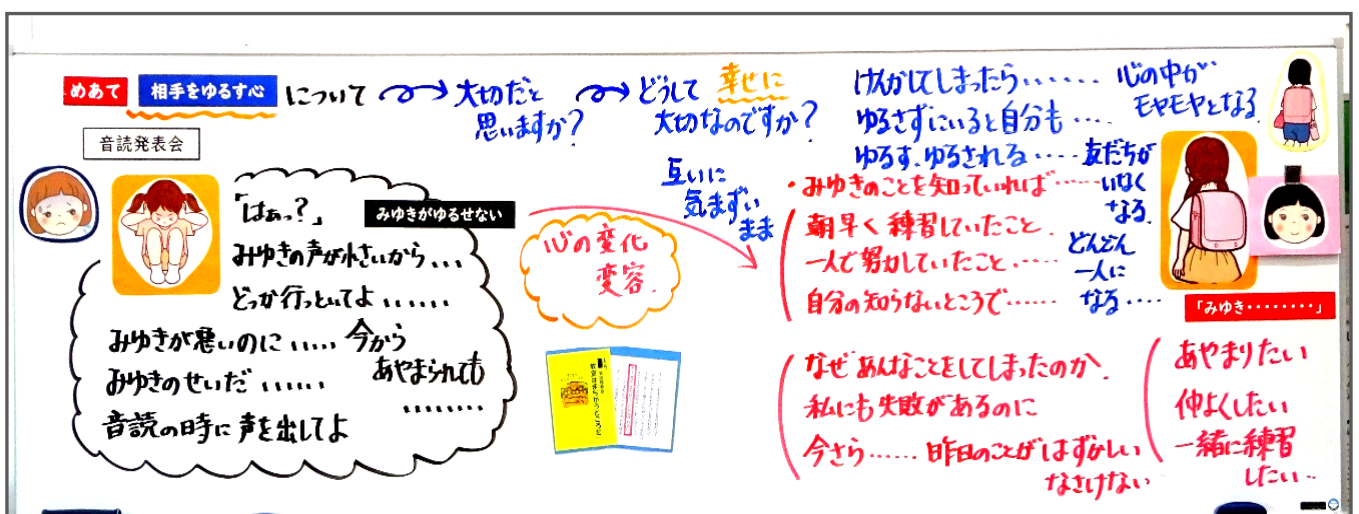




## 板書をもっとシンプルに ~児童の思考は左から右へ流れている~

私は多くの授業実践を行う中で（児童の思考は、GIGA端末活用の影響によって、（おそらく）左から右に流れているのではないかと）思い始めました。そこで、ここ数年は一部の教材を除いて、板書はすべて横書きにしています。



上記は、6年自作教材『音読発表会』（相互理解、寛容）の授業の板書です。この板書には、横書きであるがゆえに使いそうなスモール・エッセンスが入っていますので、一つ一つ紹介していきましょう。（教材に興味のある方はご連絡ください）

### 【スモール・エッセンス1】

## 板書は3分割で考えてみる → 発問を精査する

横書きのよさの一つに「板書を1枚の絵（シート）として、一目で認識できる」ということがあります。終末のふり返りを書かせる前に黒板（ホワイトボード）に目を向けさせることで、学習したことを一瞬にして認識することができます。

そして、板書を3分割することで、発問に対して、わかりやすく時間や場所（場面）に分けて考えさせることができます。多くの場合、中心発問前に主人公の心の変容（変化）のきっかけとなるエピソードがあります。そのきっかけとなること（人やもの）を意図的に掲示することも大切です。この教材では、音読発表会の台本になります。

板書を3分割するという事は、発問を精査することに他なりません。教材文からは多くて

2つ、ここでは左下が基本発問、右下が中心発問、そして「めあて」の右横（上）は、展開後段の発問になります。カラーペンの使い方には様々な方法がありますが、ここでは、基本発問は黒ペンで、中心発問は赤ペンで、そして展開後段の発問は青ペンでそれぞれ板書しました。

### 【スモール・エッセンス2】

## 中心発問の板書を工夫する → 整理して板書する

板書について、「児童の意見をテンポよく聞き、内容ごとにまとめて（整理して）、板書したい」と思うことがあります。相互指名をさせれば、板書に時間を取られてしまい、児童の発言をしっかりと聞くことがむずかしくなります。一方、発言を聞くたびに板書すると授業のテンポが悪くなります。また内容ごとに整理して板書するとなると・・・なかなか板書がうまくいきません。

そこで、今回は児童同士の相互指名を中心に、テンポよく発言させながら、時折、教師のゆさぶり（つぶやき）を入れつつ、全員発表をねらいました。その際、児童の発言をメモすることが必須です。そしてメモしたことを、「みんなの意見を聞いていたら、大きく3つのなかまに分けられることに気づきました！」と驚きながら、教師がなかまごとに整理して板書します。整理の仕方も主人公の思考の流れ（思考の段階）に気づかせつつ板書します。

なお、教師が児童の発言を予想するとともに、板書イメージを明確にもって授業に臨むことが大切です。

### 【スモール・エッセンス3】

## 「めあて」を回収する → 展開後段の発問につなげる

これまで授業実践を重ねる中で、ずっと考えていたことがありました。それは「「めあて」をどのようにして回収すればよいか」ということです。「めあて」と「ふりかえり」は対になっていますが、「ふりかえり」が本時の学習の「ふりかえり」になっていないような気がしていました。そこで導入の段階では「めあて」をすべて提示せずに、展開後段の問いとつなげながら、「めあて」について考えることができるようにしてみました。

今回の授業では導入で「相手をゆるす心について」のみを板書し、展開後段で「めあて」につながる問いを投げかけて、「相手をゆるす心」についてダイレクトに考えることができるようにしています。教師の発する言葉を写真のように「めあて」板書することも授業のテンポをよくする手立てとして有効です。

以上の実践は、あくまでも一つの「例」にすぎません。先生方の創意工夫で楽しい道徳の授業を作ってほしいと思います。

【文責 居林 晃一郎（川岡小学校）】